

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 30

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会 長 百 濟 洋 一
会 長 エ レ ク ト 切 石 博 之
副 会 長 瀧 田 浩 彦
幹 事 三 木 武 志
会 報 委 員 長 福 岡 康 民

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

ロータリーの未来はあなたの手の中に

2009~2010年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

第 1760 回例会 平成 22 年 3 月 29 日 (月曜日) 第 30 号

本日の例会

3月29日(月)第4例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
◎卓 話 「ヨット」
(担当:福岡康民会員)
◎本日の献立 寿司盛り合わせ

次回の例会

4月5日(月)第1例会

- ◎卓 話 「不思議な手品で楽しんで頂きましょう」
ゲストスピーカー 富士奇術研究所
所長 富士谷 清様(大阪城東RC)
(担当:坪倉修吉会員)
◎本日の献立 フランス料理

前回の例会記録

3月15日(月)第3例会

- ◎ ビジター 大和高田RC 出川裕一氏 他2名

会 長 挨 拶

会長 百濟洋一

先週3月13日(土)東大阪東ロータリークラブ創立45周年記念例会に三木幹事と出席して来ました。姉妹クラブのタイ・ヤンナワロータリークラブ、韓国麗川ロータリークラブ、小田原中ロータリークラブ、そして大谷ガバナーを始めIM第4組の会長・幹事の皆様が参加され、盛大に開催されました。記念事業として、枚岡神社に時計塔を寄贈されました。

昨日3月14日(日)大阪府立大学にてジャパン・ハート代表吉岡秀人先生の「15年間ミャンマーで戦い続ける小児外科医の願い」の講演会に参加して来ました。講演において、今のミャンマーでの医療環境・生活環境は日本では昭和初期の状況で、まだ経済発展は進んでいない。それと病院に来る子ども達の親は常に一緒に居り愛情を注ぎ子ども達も安静し、病氣と闘っていることが印象に残りました。戦前の日本の親子関係も同じだったのではないのでしょうか。

幹事報告

幹事 三木武志

1. 地区より「ロータリーの心と実践」のテキストが届いております。ポストに配布しておりますので、ご一読ください。
2. 3月20日(土)会長エレクト研修セミナーには切石会長エレクト、地区チーム研修セミナーには、百濟会長に出席して頂きますので、宜しく願い致します。
3. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示していません。

出席報告

佐井委員

本日の会員数	42名
本日の出席者数	32名
本日の出席規定適用免除会員	15名
本日の出席率	84.21%
3月1日の修正出席率	89.19%

SAAニコニコ箱

大石副SAA

宮田会員 情報集會に多数のご参加、有難うございました。

松浦会員 先日の情報集會、急な用事で出席出来ませんでした。申し訳ありません。

委員会報告

国際奉仕委員会

委員長 岩崎史郎

第2660地区、2009～2010 GSEの受け入れは、東大阪R.Cがホスト役で今回は、米国テキサス州から5名のメンバーを受け入れ、約1ヶ月の職業研修が予定されています。当クラブは、特に研修でお手伝いする予定はありませんが、団長のクリス・メアリー様の最初の1週間のホームステイを担当いたします。

3月28日、シティプラザ大阪で歓迎晩餐会を行い、その後ホスト家庭に移動します。

歓迎晩餐会 シティプラザ大阪

受付 17:30 宴会 18:00

送別会 ハイアット・リージェンシー・オオサカ

受付 17:30 宴会 18:00

ホームステイでは、団長のクリス・メアリー様の出会いを楽しみに、家族との日常生活の中で、日本の生活を体験して頂きたいと思ひます。

卓話 「サイクロン支援活動報告」

ジャパンハート 江田愛子様



この度はジャパンハートのサイクロン・ナルギスで被害を受けた子どもたちのために、温かいご寄附を頂き誠にありがとうございます。また皆様の貴重なお時間を頂戴し、このたびご報告の機会を設けてくださり御清聴いただきましたこと、心より深く御礼申し上げます。

2008年5月ミャンマー南部を巨大サイクロンが直撃し、大きな被害をもたらしました。被災直後より展開した当団体の支援プロジェクトも早いもので2年目を迎えようとしています。現在の被災地は、家自体はまだ青いビニールシートがかかっている家も多くありま

すが、村人は職もあり、決して裕福ではないけれども落ち着いている印象があります。確実に復興している



様子が伺えました。私達はサイクロンにより親を亡くした子ども50名のサポートしております。目に見えるところでは復興は進み普段は明るく暮らしているものの、子どもたちの心の中には被災当時の恐怖は消えることはなく、例えば強

風によりその当時のことを思い出して怯えてしまう子どももいます。そのような子どもたちに対して、月に3～4回のペースで各家庭や学校を訪問して子どもたちが元気にやっているかを見守っています。具体的な支援としては、①教育サポート（学費のサポートや教科書・文房具などの供給）②生活サポート（主食であるお米の支援）③精神的サポート（レクリエーションやバス旅行など）④医療サポートの4つを行っております。子どもたちは時々風邪をひきますが、健康に成長しています。学校でも成績が良く、1番になったり、もしくは上位にいる子どもも多いそうです。医療サポートに関して、子どもの健康面のフォローだけでなく子どもたちにとって唯一残った片親の健康も重要になります。金銭的な理由で治療が遅れて、手遅れになることのないよう、場合によっては治療費の補助が必要となります。治療費は日本人からすれば大した金額ではありませんが、ミャンマーの人達はその治療費が払えないために命を落とすこともあるというのが現状です。子どもたちの成長をみることは私達の喜びでもあり、かかわりを通して逆に素晴らしいパワーをもらっています。子どもたちはそれぞれに将来の夢を持っており、それが叶えられるように社会的に自立する年齢まで末永く支援していきたいと思っております。私たちの活動は日本の多くの方からのご支援と協力により活動できているということに、感謝の気持ちを常に抱き、「医療の届かないところに医療を届ける」を活動理念に海外・国内を問わず今後も活動を展開してまいります。このたびは温かいご寄附を誠にありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。